

童

2024年5月31日。

躍動感溢れる緑深まる大地。樹木や植物や果樹や野菜や花が、ぐんぐん芽を出し、伸びて、毎日に繁っていく季節です。まさに、目に見える成長を実感できる季節です。人生で言えば、幼児期や思春期のようですね。

ゴールデンウィーク終了後、本格的にリズムある毎日が始まりました。五月晴れの日々が続き、安定して、里山歩きや作付けの毎日を楽しめました。おおぞらさんの母親のようなお世話好きの子どもたちのお陰で、新入園の子どもたちも、(たくさんのおおぞらお母さん) 幸せで穏やかな毎日を送り、スタッフも失業するほどです。本当に、素晴らしい構成、まさに、大家族 大勢の兄弟姉妹で暮らしている、理想的な大地となっています。

飯綱登山 給食 料理 田植え そして 文庫祭 などと、今年は、新学期から 飛ばしています!! もちろん子どもたちだけでなく、保護者の皆さんあっての大地だけに、子どもたちの日々の充実は、皆さんのお陰です。

飯綱登山は、好天に恵まれ、時差登山も 計算通りで、頂上付近で全員一体感を持って、皆で素晴らしい世界を共有する事ができました。後で述べますが、子どもとの登山は、頂上を目指す、何かをする為に登るのではなく、道草(おやつを食べたり、景色を見たり、遊んだりしながら)をしたり、ファンタジックに遊んだりしているうちに、いつの間にか頂上に着いているといういつもの散歩の延長と言う感じです。その楽しい散歩を、途中どんな道草や遊びを展開していくかが、大人のポイントです。ここには、無限な遊び心とユーモアとメルヘンが必要です。お陰様で、全員が、富士山や北アルプスの眺めを楽しみながら、素晴らしい登山を楽しめたのではないのでしょうか。



大地の畑には、ライ麦や小麦がぐんぐん丈を伸ばし、ジャガイモが芽を出し、今年から新たに 奇跡のリンゴの木村式無農薬稲作の田んぼ栽培を加えて、丁寧に 農業を子どもたちと共に、取り組んでいます。先日 一回目の田んぼのチェーン除草を終え、予想以上に、子どもたちは大喜びかつ力強く、広大な田んぼでチェーンを曳いています。まさに、こんな光景は、日本にも類を見ないと自負しています。

そして、文庫祭。新年度のこの時期に、子ども大人が一体となって、200人ほどの人手で、大地の丘が賑わったことは、皆さんの素晴らしい底知れぬ熱意とエネルギーの賜であると敬服 感謝しております。子どもと共に、相互作用でエネルギーを高めながら、大地ライフを楽しんでいきましょう。

【ナマケモノの無駄な哲学】

①長屋の大家と怠け者の若者の会話

大家「若いもんが 寝てばかりいねえで 起きて働け」 若者「働くといいことあるんですか？」
「働けば 銭 稼げらあ」 「銭かせげば いいことあるんすか」 「そら 稼げば 金持ちになる」
「金持ちって なんかいいいことあんすか？」 「金持ちになったら もう働かずに寝て暮らせる」
「それなら もうやっています!!」

②東南アジアで開発の融資をしている銀行員と一生懸命働かない現地住民との会話

銀行員「なぜ、もっと頑張って 働いて 金を稼がないのか？」 住民「金持ちになるといいことありますか？」
「そうすれば 別荘でも建てて のんきに暮らせるじゃないか」 「ああ それならもうやっています」

③ 2400年前 世界征服のアレクサンドロス大王とソクラテスの孫弟子ディオゲネス(無私無欲の思想家)との会話

ディオ「これだけの軍隊を引き連れて、あなたはどこへ行くのですか そして 何のために」 アレ「余は 全世界を征服する為に インドへ行くのじゃ」 「その後、あなたは どうするつもりなのか？」 「世界を征服したら 休むことができる」 「それはおかしい 私は世界征服などしなかったが 今こうして休んでいる。あなたも休みたいなら、なぜ今そうしない もし休めないなら、あなたが休むことは永遠にないだろう」

※祖父と孫ぐらい離れている両者は、同じ年に亡くなったとされている。そして、あの世で 若くして死んだ大王にこうつぶやいたらしい 「あなたの生涯は無駄だった あなたは生を取り逃がしてしまったのだ」

「なぜ 山へ登るのですか？」 「そこに山があるからです」 誰もが聞いたことのある有名な言葉ですね。

山へスキーやスノーボードをする為に登る 海へは釣りや船に乗るために行く 欲しいものを手にするために買い物に行く(目的物を買に行くのは 買い出しであり、偶然見つけて買ってしまふのが本当の買い物である と聞いたことがあります) ことと、何となく 海や山へ精神的に行きたくなる とは、どこかが違うと思いませんか？

「役に立つか 役に立たないか」「目的があるか ないか」 「必要か 必要じゃないか」「効率か 非効率か」

「便利か 不便か」「意味があるか ないか」「無駄か 役立つか」

まさに社会の風潮は、全てのものが 目的と連結し 効率性に裏打ちされた尺度で 判断されているように思えます。役立つ 目的 効率性 必要・・・が勝者であり、その対局のものは、弱者であり省かれていく風潮。一見 役に立ちそうもない無意味な物や行動を楽しむ。このゆとりや遊び心やユーモアが、人間社会の成熟度に繋がるのではないのでしょうか。飯綱登山での野点 文庫祭 和のコーナーでの茶箆筍や和鏡などの陳列。目的もなく何らかの役に立つという訳でもなく、それがなければ困ることもない ある意味 無駄なことをしています。

坂本龍一が言っていました・「無駄を愛でよ そして災禍を変革の好機に」 芸術や音楽や詩なんて、お腹を満たしてくれる訳でもなく、誰かの役に立つわけでもなく、お金を生み出す訳もなく、誰かに勇気を与えるためにある訳でもない。例えば 音楽の感動なんてものは、個々人の誤解の産物 何に感動するかなんて人によって違うし、同じ曲を別の機会に聞いたら全く気持ちが動かないこともある。芸術なんて、何の目的もなく、ただ好きだから、やりたいからやっている そうやって 何万年も人間は芸術を愛でてきた と。

子ども 幼児の日常は、まさに 無目的な非効率な暮らしです。ある意味 ユーモアと遊び心と非効率に満ちた成熟した世界です。この子どもたちから教えられることは多数あり、そして、共に豊かに暮らすには、無駄を楽しむ心。

皆さん 子どもと一緒に アイスクリームの蓋の裏やケーキを覆うセロファンを舐められますか？ これが 大人と子どもの境界線です。目的のない暮らしを、たくさん子どもと楽しんでみませんか。

ここ数年 子どもも大人も何かにつけ「頑張ることにより 多くの人に笑顔になってもらいたい 勇気を与えたい 元気になってもらいたい 笑顔を与えたい・・・」などと口にします。違和感があります。耳にするのは 嫌いです。

「私、これが大好きです めちゃくちゃ楽しいです!!」の方が、大好きですし、元気が出ます、青ちゃんは。